

学習シート例2②

区分	かず・算数・数学	実務	
項目	買い物		
<この学習に取り組む意味> ・買い物は生活の中で、とても楽しい活動である。お金の重要性を知り、お金と交換に品物がもらえることを知ること、を基盤にして、買い物の技術を知り、将来的にも買い物を楽しみにし、できるようになることは、余暇の充実につながると思う。また、お金の意味を知り、その活用を考えることで、働くことへの意欲にもつながると思う。			
<キャリア教育の観点から> ・「買い物」という点に目標を設定すれば、お金の計算ができなくても、品物の購入の手順を理解して、一連の動作ができれば買い物学習にとりくむことができる(金額については、店の人に支援を求めることもできる)。この目標の場合には、さまざまな形態の支払い方法を知ることが目的となる。授業で練習を行い、実際に社会資源を利用することが重要となる。			
<障がい特性の観点から> ・「好きな物を買ってよい買い物なのか、頼まれた買い物をするのか」など、あらかじめ決めて予告しておくことが大切。			
<教科(項目)の系統性・前提となる力> ・家庭で買い物に行く機会があるのであれば、そのときにどんな様子なのか、実態把握をしておく役に立つ。「店に入るのに、抵抗が大きい」「すぐに自分の好きな物を取ってその場で開けてしまう」など、児童生徒の実態がわかっていると、「まずは入りやすい店、あるいは自動販売機から」「あらかじめ買う物を提示して約束して買い物に行く」など、指導を工夫することができる。 ・また、「お金をどのように扱う(手先の活動)か」、「お金を見分けることができるか」などの実態把握をしておく、出し入れしやすい財布を持たせる、まずはきっちりお金を入れておく、などのスモールステップで行うことができる。			
段階	内容	方法	発達年齢
①	お金を払うと交換に品物がもらえることを知る	・買い物ごっこなどで、お金を払って交換するという設定を行う。	
②	買い物の手順を知る。	・カゴを持つ→品物をカゴに入れる→レジに並ぶ→お金を払う→おつりとレシートをもらう→品物を持って帰る の一連の動作を練習する。	
③	買い物でお金を適切に扱う。	・お金を財布から出したり入れたり、言われたお金を出し入れすることができる。	
④	さまざまな場面での買い物の手順を知る。	・自動販売機や券売機(無人・機械相手)で買う、スーパーやコンビニで買う(カゴに入れてレジで払う)、ファーストフード店で買う(パターンにのってポイントカードで買う)、レストランで注文する(選択肢から選んで注文して待ち、最後に払う)、などの注文形式と、飲食店、パン屋さんなどのさまざまな買い物、注文形式の手順を模擬練習する。絵などで動作や台詞の入った手順書を示す。	
⑤	状況に応じて買う	自分の好きな物を買う、頼まれた物を買う、限られた金額内で買う。	
⑥	働くとお金がもらえ、そのお金を貯金して買いたい物を買うことができることを知る。	・お金をためる、という設定を家庭と協力して行う。何か自分が買いたい物、ほしい物を目標に設定し、貯金表を作成して貯まていく様子が目で見てわかるようにする。	
⑦	生活に必要な経費を理解する。	・「小遣い帳、家計簿をつけてみよう」という設定で、生活するにはどんな費用が必要なのかを考え、どのくらいのお金が必要なのかを考える。	
⑧	販売の経験をする。	・お祭りなどで実際に販売をする経験をする。	
⑨	お金について、だまされることがないように知識を得る。	・お金について、どのような勧誘や危険があるのかを説明し、クイズ形式で、「どうすればよいのか」に応える。学習したことをハンドブックにして持つておく。	